

令和3年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 聖徳園	代表者	三上 了道	法人・ 事業所 の特徴	敷地内には同法人が運営するグループホーム、こども園、母子生活支援施設、児童家庭支援センターがある。それぞれの事業所を利用している子どもや保護者と日常的に交流を行っており、利用者の楽しみや生きがいとなっている。施設では猫1匹飼っており、利用者の癒しになっている。
事業所名	あわら聖徳園	管理者	前川 典雅		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	人	1	人	4人	人	人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価 の 確認	・情報共有の手段について SNS はメリットが大いだが、デメリットもたくさんあるため、十分に注意が必要。SNS で情報を共有する場合は、個人名が分からないうちにイニシャルにする。また画像は対応後すぐに消去するなど細心の注意を払う。 ・ライフサポートプランの目標を達成するために、ケアマネと担当者で情報を共有し、達成度を確認しながら支援していく。 ・本人を支えているのは家族なので、家族の考えを理解し、家族とともに本人を支えていく。 ・課題が上がったらすぐに水平展開をしていく。	・仕事上、グループ line など、SNS でのやりとりをせざるを得ない場合には、一定のルールを決めて、①利用者さんの処遇に関する内容についてのやり取りはしない。②緊急性があつて、SNS でのやりとりをしないといけない場合は、個人名がわからないようにすぐに消去するなどの対応を徹底している。 ・ライフサポートプランの達成度確認については、情報共有し、モニタリングで家族・担当者・事業所と確認している。結果、目標設定については抽象的な面も多く、不十分なこともあるため、今後の課題である。	・個人情報と迅速な業務遂行とは、紙一重だと思う。個人情報をしっかりと守れるよう注意していただきたい。 ・計画書については個人の目標についてその目標設定はそれぞれ難しいと思うが、本人や家族がことの先どうしたいのかと言った事を、よく話し合ってもらいたいと思う。	・本人や家族の思いを深く理解し、目標を明確具体化できるようにする。 ・以前の暮らし方など、24 時間シートについて勉強会を強化するなど、職員全員がその使い方を理解し、利用者にとって何が一番なのかを確実に見える化できるようにしていく。 ・利用者個々人が何のためにサービスが必要なのかを職員間で情報共有する。

B. 事業所のしつらえ・環境	・職員・利用者の健康観察の徹底と感染拡大防止に努める。 ・小規模玄関横のカーテンを開けている時間を決める。自動ドアがうまく作用しない時があるので、場合によっては自動ドアの修理を行う。 ・事業所内での巡視を定期的に行い、そこで課題が上げれば早急に対策をとっていく。	・特に、職員は毎出勤時の体温測定、利用者や業者さんなど外部の人にも協力してもらい、感染予防に努めている。 ・インターホンが電池切れしないように注意しているが、電池の寿命が短く気づかないうちに切れていたことがあった。今後は、もう少し期限が早いことを予測しインターホンを押してもならないうといっただ不備が無いようにする必要がある。	・常日頃から事業所の親しみやすい雰囲気や利用者に対する細やかな対応等の配慮等が十分されている ・厳寒の頃とコロナ自粛の時期が重なり戸外に出ることが少なくなった。事業所の状態を把握することが難しかった。 ・事業所を開放的な場所にすることで、地域との隔たりをなくそうとされていると思う。 ・明るく見透しの良い外部環境になったと思う。	・コロナ禍の厳しい現状は続いており、ひきつづき職員・利用者の健康観察や消毒を徹底し、感染拡大の防止に努める。 ・インターホンその他のコールド関係に不備がないよう、早めの電池交換や点検を徹底する。 ・毎月の事業所内巡視を徹底し、早期発見、早期解決に導く。
C. 事業所と地域のかかわり	・いきいきサロンに関しては、市役所が実施している出前講座を地域の人から依頼してもらい、聖徳園のいきいきサロンの間に入れ内容に変化をつけていく。 ・参加者のレベルに合わせた内容を考えていく。個人差がある場合はグループ分けするなどを参加者全員に楽しんでもらえるよう工夫する。	・いきいきサロンに関しては、コロナ禍の中開催自体も年間予定の3分の1程度しか、開催ができなかった事実と、人があまり来なかったといった現状がある。 ・サロンに来客された人が少なくとも参加者全員に楽しんでもらえるよう工夫は出来たのではないかと思います。	・あわら聖徳園については、地域密着型の施設であり、利用者やその家族、地域包括支援センター等他事業所から相談がしやすい事業所であると感じている。運営会議等の報告を踏まえても事業所のスタッフは地域行事等に積極的に参加している。 ・この数カ月、いきいきサロンも開くことが出来ず残念。コロナ禍の中で計画を立てたり、通知を各家へ配布するなど、努力をして下さっていることに感謝する。 ・積極的に地域との関わりを持つとうとしていることが伝わる。事業所の利用者だけでなく、サロンに参加する地域の人にも貢献しているという本心が良いと思う。 ・地域の認知度は、まだ低いと思う。 ・なかなか地域の行事やイベント	・地域の人が一人でも興味を持って参加してもらえよう、また、地域住民のためになるようないきいきサロンの内容を考慮し、提供していく。 ・地域の中で、聖徳園の認知度があげられるよう、広報活動等を行い、事業所の取り組みを地域に発信していく。

				には参加できていないという意見が多かったと思う。コロナ禍で交流ができていないということもあると思うが、地域の情報には敏感にいて、事業所の取り組みを地域に発信することも大切である。	・小規模多機能型居宅介護における細やかな利用者への対応の他、地域の高齢者世帯の訪問や運営推進会議における地域住民の参加等、地域住民の目線で暮らしを支える取り組みをしている。 ・利用者以外の心配な方に関わっていることで、アウトリーチに繋がっている。 ・ご近所の必要な方への訪問は本当に有難く思う。 ・コロナ禍もあり、地域資源の活用が難しい時であると思うが、ひきつづき他機関と連携しながら、地域貢献に努めてもらいたい。	・地域性もあり、今後も独居老人は増えていくものと思われる。把握できる地域の独居老人が一人でも多く把握できるように継続し、困難な方に対しては、包括、区長、民生委員、行政等と連携して安心して暮らしていけるようにしていく。
D. 地域に向いて 本人の暮らしを 支える取組み	・いきいきサロンへ参加しない方への訪問は、拒否をされてもあきらめずに見守りから始める。また自分たちのできることをやっていく。 ・今後も区長や民生委員、包括や社協と情報共有し、連携を図っていく。	・地域の独居老人への訪問は以前より行っているが、訪問拒否の強い方には施設内で相談し、無理をせず見守りや把握に努めながら、継続している。 ・ケアマネや行政が関わっている人もいるが、個人情報なので、そこまで把握できない点が難しい。	・事業所の取り組みや心配な利用者の報告、会議の中で挙げられた意見等を取り入れる等を積極的に取り組まれ、それらを事業所の運営に十分に反映されていると思う。 ・地域の高齢者へ向けた取り組みなど、積極的に活動されていると思う。家族の参加や事例検討により、より具体的に、現実的な協議ができていくと思う。	・家族が会議の場に出席することは難しい問題であるが、事前に意見聴取するなどし、会議で家族の思いを伝える。 ・地域の課題について、行政からの意見や、行政へ働きかけ、利用者や地域で暮らす人々がより暮らしやすくなれるようにしていく。		
E. 運営推進会議を 活かした取組み	・会議で出た地域の課題や行政からの意見を今後の取り組みに活かしていく。 ・家族に参加してもらえよう積極的に働きかけをする。	・会議において、事例検討を用いて相談させてもらい、支援が難しい人などの助言をいただいている。 ・聖徳園としての地域に向けた取り組みや方針を伝えることで、区長や民生委員、社協、包括等の行政とも連携が円滑に出来ていると思われる。 ・家族の参加は、コロナ禍もあり、なかなか難しくかったところは反省点である。				

			・他機関や家族からの意見を取り入れ、よりよくなるよう取り組んでいる。利用者が暮らしていく基盤である地域へ働きかけていくのはとても大切な事だと感じる。	・日頃から積極的に、防災訓練の実施や災害に対する意識づくり、特発的な不審者への対応等、事業所だけでなく法人全体で取り組みをされている。 ・施設での防災や災害時の避難などは、大変重要な事であり、定期的に訓練を実施している。身体的に不自由な高齢者の方々の避難誘導はどんなに大変だろうと推測されるが、これからもお願いしたい。 ・地域住民が避難できる場所であるように取り組んでいるのがわかる。利用者それぞれに合わせた避難や、夜間の動きなど、実際に即した取り組みをしているのが良い。 ・災害時にはこども園の講堂を避難所として開放しているとのことで、周囲の地域住民は安心感を得ることが出来ているのではないかと思う。	・感染症問題やその他の重大な災害が発生しても、極力、サービス提供が滞らないようにマニユールを作成する。 ・避難訓練や防災訓練等を継続しながら、避難所の開放など、聖徳園として地域に貢献できることを続けていく。	
F. 事業所の 防災・災害対策	・発電機の購入を検討する。 ・施設としての備蓄の他、地域の人々が避難して来ても、対応ができるようにする。 ・利用者の重度化に合わせた訓練や夜間の一人体制時の避難の仕方を再度検討する。より実践に近い訓練を計画していく。	・発電機の購入に関してはまだであるが、前向きに検討している。 ・地域の人が避難してもある程度は対応できるように準備している。 - 定期的避難訓練をする際は、重度の人を上階から降ろす場合や夜間想定での訓練を行い、その評価を行ない、反省点を次に活かせるようにしている。				